



全米No.1ヒーローに躍り出た男。その名はヴァン・ダム。

子供の頃に病弱だった彼が、世界のアクション・スターとして認められるまでになったのは、空手世界チャンピオンのドミニク・バレラとの出会いがあったからだ。

ヴァン・ダムは10年にわたる鍛練のすえに、10代で欧州のチャンピオンとなった。その後、彼は自らのスター性を信じハリウッドに身を投じる。

'87年に「ブラッド・スポーツ」で見事に主役を務め、 '88年の「ブラック・イーグル」では忍者スター、ショー・ コスギと共演。そして彼の魅力はこの「サイボーグ」で 遂に完成した。

彼が旧来のアクション・スターと一線を画すのは、悲しみの表現ができるからだ、とファンたちは言う。彼の闘争心はいつも復讐によって駆き立てられ、宿敵を葬った拳の向うには苦渋に満ちた瞳がある。この男こそ、次世代のスターになるはずだ。

世紀末に現れた悪と善。決戦の時はやってきた。

最終戦争後の未来。人類は経済も文明も道徳も遥か遠い過去に置き忘れ、繁栄の残り香漂う瓦礫の中で必死に生き抜こうとしていた。だが、その僅かな再生への夢も正体不明の疫病と、〈滅亡の現人神〉と名のるフェンダーの軍団によって打ち破られようとしていた。

その時、この暗黒に光を投げかける男が現れた。〈スリンジャー〉と呼ばれる兵士軍のリーダー、ギブソン・リッケンバッカーの出現だ。彼はかつて、フェンダーの手によって殺された恋人の復讐のために、奴を追って戦いの日々を過ごしていた。

フェンダーは彼の行く手に様々な罠を仕掛ける。凶悪な森の原住民「死の狩人」、精鋭の暗殺集団「パイレーツ」 …彼の肉体は深く傷ついたものの、奇跡的な復活を遂げることに成功した。

闇の中、ギブソンは走る。孤高の戦士の怒れる魂が、 白い燐光となって拳に宿った。フェンダーのアジトに着 いた彼を、突然の酸性雨が包む。不気味な静寂。

雷光一閃。浮き上がった巨大な影。

廃墟の中、肉体のラスト・バトルが始まる。

最終戦争後の地球を創造。決め手は廃墟と武器だ。

「デルス・ウザーラ」で世界のクロサワの演出現場に接した監督のアルバート・ピュンは、その後、占星術師の手によって大ヒットしたと言われる「マジック・クエスト/魔界の剣」('82) でデビュー。「ラジオアクティブドリーム」('86)「ハイスクール殺戮クラブ」('86) などを経て「サイボーグ」に至る。彼はこの作品を従来にないSFに仕上げるため、廃墟のシーンに力を入れた。25 t の土砂、様々な看板やネオン、植物がスタジオに持ち込まれた。更に特殊効果を加えるために「ターミネーター」のファンタジーII工房と「コクーン」などのグレック・キャノンが参加。現実を越えたリアルなセットを現出。

次に武器。監督の「現実には存在せず、英雄的なもの」という意見から、剣、ナイフ、弓矢など100を越える種類の武具が作り上げられた。その代表作が、ギブソンとフェンダーがそれぞれ持つ『アローブラスター』だ。これは小型のガトリング・ガンのような連発式の銃で過去と未来が交錯したような不思議な雰囲気を持った一品だ。

また、剣劇シーンでは双方の剣に電気を流し、触れる たびに火花がショートする工夫などがなされた。







日比谷映画 の3(591)5353 **映画**